

# 大分県立竹田高等学校

## 関東同窓会 第19回総会・懇親会

とき 平成17年6月18日(土)

ところ ホテルセンチュリーハイアット

当番幹事 後藤 宏 (昭39年卒)



大分県立竹田高等学校  
関東同窓会  
第30号

発行所 会長 佐藤 晴之  
編集者 委員長 佐藤 隆士  
発行所 関東同窓会事務局  
〒190-0002  
東京都立川市幸町4-47-29  
電話 042-532-3322  
FAX 042-532-3322

印刷 佐伯印刷

### ●平成十七年度 総会報告

6月18日、今年も恒例の第19回関東同窓会がセンチュリーハイアット東京で行われました。

当日は当番幹事役(昭和39年卒業・昭和45年卒業)の人たちが朝9時には集合し、開会準備に入り、開会時刻の正午前には参加者が続々と来場され開会を創る事が出来ました。

12時には、関東同窓会の総会が用事幹事長の司会で開会宣言が行われ、佐藤関東同窓会会長の挨拶があり、その後会務と会計報告がありました。又、今年度は関東同窓会の役員改選の年に当たる為、新しい役員が決まり、各役員の内訳が行われ、今後2年間のご苦労をお願いする事となり、各校員の方からは異口同音に「激力ながら全力で頑張ります」と頼もしいお言葉を聞きます。格別なお力添えを願いますように、とお断りを会員一同が受けました。

そして、朱賀挨拶に入り、はるばる竹田から出席いただいた竹田高校遠征部長の副校長が竹田高校の現状と教育方針を「先輩諸氏の活躍と後輩への支援を感謝します」と言う言葉と共に、特に昨年度お話しなされた「グローバルな感性を養う」を実践していく事を報告し、次に、竹田高校同窓会会長の後藤宗明氏が海外出張の為、副会長の後藤真志さんと副幹事さんが出席され会長に変わって挨拶されました。

引き続き、今年4月より旧竹田市と久住を含む直入郡が合併統合し新生竹田市となった初めての市長選で選出された牧野長(旧姓小野)市長が新会長として所属演説をユーモアたっぷり熱意込めて行われました。牧野市長は昭和39年竹田高校卒業で、お父さん(小野相兼先生)が竹田高校で長年におわり教師をとっておられました。牧野市長の事は知らなくとも、竹田高校卒業生ならば小野先生は学校でも名物先生で、漢文授業の事をよく憶えている、今日、出席の年配者の方は懐かしい思いをしながら聞いておられたのではないでしょうか。

### 大分県立竹田高等学校 第19回関東同窓会総会・懇親会



佐藤幹事長より新役員を紹介  
ご声援の程です。

- プログラム  
(総会の後)
- 11:30-12:10
  - 1. 開会のことば
  - 2. 会長あいさつ
  - 3. 会務・会計報告
  - 4. 監査報告
  - 5. 新会長あいさつ(新役員紹介)
  - 6. 東宮あいさつ
  - 7. 閉会のことば



受付の様子



フォトで綴る!!  
第19回 総会懇親会風景



新竹田市長 敬さん



用正幹事長



栗生さん 有難うございました

プログラム

【懇親会の部】

12:20-14:30

1. 乾杯
2. 会食・歓談
3. アトラクション
4. 当番幹事引継ぎ
5. 「校歌」斉唱
6. 閉会のことば



会場の様子



牧市長 大丈夫?



桐平市長節正



会場の風景



14  
17  
20  
24



寛城の月合唄



会場の風景



33  
34  
年



当番幹事の方々 ご苦労様でした



ストーム 闘い盛り



当番幹事の引継ぎ

★これらの写真は竹田高校関東同窓会のホームページで、見ることができます。  
<http://www.geocities.jp/kantohktakta/>

# 平成十七年度総会報告と 平成十六年度会務・会計報告

## 佐藤映之会長 あいさつ

### 〔創立二十周年に向かつて 更なる発展を〕

竹田高校同窓会東同窓会会員の皆々様には益々、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

本日はこの報告の場にて、お喜び下さいますと誠に有難うございます。委員の皆様には毎日頃、同窓会の運営にあらためて格別のご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。お除夜の高会も同を重ねる毎に光栄し及情の輪も拡大の一途を通っております。

本席には皆様より竹田高校J.V.でありました渡辺孝之助校長、本校同窓会副会長、後藤貞志氏、同窓会会長、新竹田市長、牧野元より大分県東支事務所、大分合同新聞東京支社、大分工業、三重高校、三重県、各校長の幹事長の「ご報告を賜り、二十名の委員の出席の日、ここに振々しく第十九回総会の報告、懇親会を開催できました。これは誠に「同窓の情」であります。今年も「ご報告」第一期三千九百年、



佐藤映之 会長

第一期四十九年卒の皆々さんが一年間にわたる企画、立案、そして懇親会を準備されたことが本日の報告が繋がったと確信致します。改めて「厚力」に報告を表します。当会の状況の一つとして、新理事が選出されました。ムベージュを代表する役員と立上げました。広後義典(寛生)と併せて合同相互の情報交換の場として大いに活用いただけるはずであります。二年以内に当会は昭和六十一年に設立、爾来、好余仙街を縁ながら十代を積み重ねてまいりました。東本は大きな節目を迎えます。記念すべき二十年間として、発表の場に企画委員会を幹事(第17回)十年卒第27期五十年卒、中心に職員会議を行っているところであり、能力を挙げて盛り上げたいと考えています。最後になりましたが、「ご報告」の二出席に感謝申し上げ委員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 平成十六年度

## 会務・会計報告

### (1) 会務報告

- 平成十六年六月十一日(土)  
第18回総会・懇親会  
於 センチニリハイアム東京  
出席 二百五名  
出席 二百五名  
幹事 五十名
- 平成十六年六月十五日(土)  
第18回総会、懇親会  
開催、協賛機関、会務・会計報告、役員改選  
米澤隆雄、乾祥  
アトラクションは西みはさん(S.55年卒)のソプラノソロ  
インフォメーションセンター  
開催 郡士後援会コーナー設置  
出席者七百七十五名
- 平成十六年七月十三日(金)  
総会・懇親会の反省会実施
- 平成十六年十月二十六日(火)  
第18回総会、懇親会  
役員会 於 学士会館  
秋の定例総会日程、議題について
- 平成十六年十月二十六日(火)  
幹事会 於 学士会館  
出席 二十八名  
第18回総会、懇親会の会計報告  
第19回総会・懇親会に向けての日程等確認
- 平成十七年二月十四日(月)  
幹事会  
役員改選年度にあたり新役員候補者募集、報告
- 平成十七年三月十四日(月)  
幹事会 於 学士会館  
出席 二十八名

## 会計報告

### 収支計算報告書

(入16,413円から出17,331円まで)

1. 収			
①	雑収入	1,853,370円	費負担金入
②	雑収入	1,560,000円	会費収入
③	雑収入	120,000円	会費徴収
④	雑収入	8円	雑収入
⑤	雑収入	0円	
計		3,543,378円	
2. 支			
①	雑支出	2,420,500円	会費負担金
②	雑支出	621,074円	信託費
③	雑支出	27,263円	雑支出
④	雑支出	494,123円	雑支出
⑤	雑支出	190,638円	雑支出
⑥	雑支出	40,000円	雑支出
計		3,799,588円	
繰越金		1,927,756円	
合計		5,727,344円	
3. 次期繰越の内訳			
①	現金	0円	
②	預金	1,927,756円	
計		1,927,756円	

上記の通り報告します。  
平成17年4月8日 幹事 靖彦

監査報告書  
監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であるとして認めます。  
平成17年4月15日  
監査 坂本 博  
監査 本藤 敏  
監査 野村 昌

## (2) 会計報告

（表裏照し）

会計報告は平成十七年四月八日に取本監事報告書に添付し、適正かつ正確である旨の報告があり、報告において承認可決されました。



# 会員特別寄稿

## 「在京桐葉会を 振り返って」

石原 田鶴子  
(前14年卒)



前列中央が筆者

落か後継の後継者さん、田部洋子さんに後から押されて、ペンを持つ事になりました。唯、

丁度、桐葉会を、今年でお終ひにしようと思っていたので、良い機会だ、皆におられるいゝいゝにも、書き残す事にしました。

桐葉会の歴史を語る上で、三宮美穂子さん抜きでは語れません。会をつくられた、昭和六十一年に亡くなられた迄、会長としてすべての面で力を尽くして下さいました。

私が初めて参加したのは、東京の大空襲で被災、五年間九州に疎開して二十五年に帰京、二十八年頃また小さかった御宅に連れてきた三宮さんの御宅に伺ったのが最初でした。上野から等々力迄は結構池がったので、往復をちょっと辛いと思はない程しかなかった。お友、広いお庭、立派なお宅、前の日から何人か泊まり込みで用意された御飯、戦後生活の様子は夢の如くでした。

御飯後、広義の叔母様(広義中佐の従妹)がニコニコと坐っていらつしやうに私達をついて下さいます。

古河の御飯さん姉妹が三味線を打ち込み歌つたり踊つたりと賑やかなものでした。

中学時代の坊ちゃんがいりつしやるのを、チラッと拝見した気がします。

其の頃三宮さんは御主人亡き後、三人の御子様、御母さまとのお家家族の為、大分パターの会社をお友達とつづられ営業に駆け廻つておられた、と言ふ事になって知りませんでした。でも私達には其の様なお顔を全然御見せになりませんでした。

十七年になりました。

日里の香澄、等、何名か代わりました。現在は橋田山津に決めて毎年十月に開いて、私も表的、お土産もおたたりし、幹事には内規なものが、一番有難い事です。

出席者は年々減り、若い方は後の方が魅力があり、年配者は減ってゆきました。

始めは百名程度出した案内状も、五十名、今年には三十名になりました。出席者は十五、十六、八、九、十一年、十三年卒の方は熱心に出席して下さいました。群馬県の海湖から泊り掛けで出席の方もあります。七十年級院いた会を私共の力不足で閉じる事は申し訳ないのですが、体力の限界を感じています。

私が初めて参加したのは、東京の大空襲で被災、五年間九州に疎開して二十五年に帰京、二十八年頃また小さかった御宅に連れてきた三宮さんの御宅に伺ったのが最初でした。上野から等々力迄は結構池がったので、往復をちょっと辛いと思はない程しかなかった。お友、広いお庭、立派なお宅、前の日から何人か泊まり込みで用意された御飯、戦後生活の様子は夢の如くでした。

御飯後、広義の叔母様(広義中佐の従妹)がニコニコと坐っていらつしやうに私達をついて下さいます。

古河の御飯さん姉妹が三味線を打ち込み歌つたり踊つたりと賑やかなものでした。

中学時代の坊ちゃんがいりつしやるのを、チラッと拝見した気がします。

其の頃三宮さんは御主人亡き後、三人の御子様、御母さまとのお家家族の為、大分パターの会社をお友達とつづられ営業に駆け廻つておられた、と言ふ事になって知りませんでした。でも私達には其の様なお顔を全然御見せになりませんでした。

桐葉会は昭和二、三年頃から始まり、大学ノートに毎年書き込んで来た、と見せて下さいます。

其の頃は大先輩が沢山いらつしやう、下本町の里田さん、川口さん、阿波ヤの芽ちゃん、少し下つては柿木さん、仲村さん(穂)、榎坂さん、特原さん、志保屋の節ちゃん(美局の母)を指で持たせられて引をして下さいました。

四、五十名は集まり、新井先生は橋本、今城先生は四国徳島の橋本、今城先生は四国徳山の橋本、今城先生は四国徳山のみだと出席下さいました。

会員もふよふよと、年寄で役員を決め、会場をとり、大会がすむと、ノートに書き込み、通帳と一緒にに会長に又一年閉鎖かって頂

いきました。朝倉御飯も三宮さんが替りて下さり、何回もしました。又御兄様に御願して下さり、京王バスを運転手つきで無料を出してもらって、長湯や箱根に、日帰りで行きました。

会に日は増え取さんが船唱して下さり、企画で「嵐城の月」を合唱し、踊る人もあり、盛り上げたものでした。私達若年組は御手伝いでした。三宮さん亡き後、会長も私達も、一志保屋の節ちゃん、と思つておりました。節、節で亡くなられて、後を追ふ様には三宮様も矢張り亡くなられました。私達が五名程で馬車道の節ちゃんの御宅で昔前に御参りしている時に三宮さんの計連が返入り、其の足で等々力の御宅に伺ふと近くの協会へ、お葬式の準備をしていらつしやうでした。七十八歳でいらつしやうでした。

突然の事で後任も決まっていず、ある後継の方が「私がします」と申出があり、何回か日本国でありました。御引継ぎをなさるからと止めたが、選挙で私が選ばれ、倉田さんがお手伝い下さるならば、「と御引受けしたのですが、ゴタゴタでノートも通帳もなくなされたこと事々からの出発になりました。歴史を刻んだノートだけはなんとかしてでも残さすべし。

桐葉会を、今年で終ひにしようと思っていたので、良い機会だ、皆におられるいゝいゝにも、書き残す事にしました。

桐葉会の歴史を語る上で、三宮美穂子さん抜きでは語れません。会をつくられた、昭和六十一年に亡くなられた迄、会長としてすべての面で力を尽くして下さいました。

私が初めて参加したのは、東京の大空襲で被災、五年間九州に疎開して二十五年に帰京、二十八年頃また小さかった御宅に連れてきた三宮さんの御宅に伺ったのが最初でした。上野から等々力迄は結構池がったので、往復をちょっと辛いと思はない程しかなかった。お友、広いお庭、立派なお宅、前の日から何人か泊まり込みで用意された御飯、戦後生活の様子は夢の如くでした。

御飯後、広義の叔母様(広義中佐の従妹)がニコニコと坐っていらつしやうに私達をついて下さいます。

古河の御飯さん姉妹が三味線を打ち込み歌つたり踊つたりと賑やかなものでした。

中学時代の坊ちゃんがいりつしやるのを、チラッと拝見した気がします。

其の頃三宮さんは御主人亡き後、三人の御子様、御母さまとのお家家族の為、大分パターの会社をお友達とつづられ営業に駆け廻つておられた、と言ふ事になって知りませんでした。でも私達には其の様なお顔を全然御見せになりませんでした。

桐葉会は昭和二、三年頃から始まり、大学ノートに毎年書き込んで来た、と見せて下さいます。

其の頃は大先輩が沢山いらつしやう、下本町の里田さん、川口さん、阿波ヤの芽ちゃん、少し下つては柿木さん、仲村さん(穂)、榎坂さん、特原さん、志保屋の節ちゃん(美局の母)を指で持たせられて引をして下さいました。

四、五十名は集まり、新井先生は橋本、今城先生は四国徳山の橋本、今城先生は四国徳山のみだと出席下さいました。

会員もふよふよと、年寄で役員を決め、会場をとり、大会がすむと、ノートに書き込み、通帳と一緒にに会長に又一年閉鎖かって頂

いきました。朝倉御飯も三宮さんが替りて下さり、何回もしました。又御兄様に御願して下さり、京王バスを運転手つきで無料を出してもらって、長湯や箱根に、日帰りで行きました。

会に日は増え取さんが船唱して下さり、企画で「嵐城の月」を合唱し、踊る人もあり、盛り上げたものでした。私達若年組は御手伝いでした。三宮さん亡き後、会長も私達も、一志保屋の節ちゃん、と思つておりました。節、節で亡くなられて、後を追ふ様には三宮様も矢張り亡くなられました。私達が五名程で馬車道の節ちゃんの御宅で昔前に御参りしている時に三宮さんの計連が返入り、其の足で等々力の御宅に伺ふと近くの協会へ、お葬式の準備をしていらつしやうでした。七十八歳でいらつしやうでした。

突然の事で後任も決まっていず、ある後継の方が「私がします」と申出があり、何回か日本国でありました。御引継ぎをなさるからと止めたが、選挙で私が選ばれ、倉田さんがお手伝い下さるならば、「と御引受けしたのですが、ゴタゴタでノートも通帳もなくなされたこと事々からの出発になりました。歴史を刻んだノートだけはなんとかしてでも残さすべし。

桐葉会を、今年で終ひにしようと思っていたので、良い機会だ、皆におられるいゝいゝにも、書き残す事にしました。

桐葉会の歴史を語る上で、三宮美穂子さん抜きでは語れません。会をつくられた、昭和六十一年に亡くなられた迄、会長としてすべての面で力を尽くして下さいました。

私が初めて参加したのは、東京の大空襲で被災、五年間九州に疎開して二十五年に帰京、二十八年頃また小さかった御宅に連れてきた三宮さんの御宅に伺ったのが最初でした。上野から等々力迄は結構池がったので、往復をちょっと辛いと思はない程しかなかった。お友、広いお庭、立派なお宅、前の日から何人か泊まり込みで用意された御飯、戦後生活の様子は夢の如くでした。

御飯後、広義の叔母様(広義中佐の従妹)がニコニコと坐っていらつしやうに私達をついて下さいます。

古河の御飯さん姉妹が三味線を打ち込み歌つたり踊つたりと賑やかなものでした。

中学時代の坊ちゃんがいりつしやるのを、チラッと拝見した気がします。

其の頃三宮さんは御主人亡き後、三人の御子様、御母さまとのお家家族の為、大分パターの会社をお友達とつづられ営業に駆け廻つておられた、と言ふ事になって知りませんでした。でも私達には其の様なお顔を全然御見せになりませんでした。

桐葉会は昭和二、三年頃から始まり、大学ノートに毎年書き込んで来た、と見せて下さいます。

其の頃は大先輩が沢山いらつしやう、下本町の里田さん、川口さん、阿波ヤの芽ちゃん、少し下つては柿木さん、仲村さん(穂)、榎坂さん、特原さん、志保屋の節ちゃん(美局の母)を指で持たせられて引をして下さいました。

四、五十名は集まり、新井先生は橋本、今城先生は四国徳山の橋本、今城先生は四国徳山のみだと出席下さいました。

会員もふよふよと、年寄で役員を決め、会場をとり、大会がすむと、ノートに書き込み、通帳と一緒にに会長に又一年閉鎖かって頂

いきました。朝倉御飯も三宮さんが替りて下さり、何回もしました。又御兄様に御願して下さり、京王バスを運転手つきで無料を出してもらって、長湯や箱根に、日帰りで行きました。

会に日は増え取さんが船唱して下さり、企画で「嵐城の月」を合唱し、踊る人もあり、盛り上げたものでした。私達若年組は御手伝いでした。三宮さん亡き後、会長も私達も、一志保屋の節ちゃん、と思つておりました。節、節で亡くなられて、後を追ふ様には三宮様も矢張り亡くなられました。私達が五名程で馬車道の節ちゃんの御宅で昔前に御参りしている時に三宮さんの計連が返入り、其の足で等々力の御宅に伺ふと近くの協会へ、お葬式の準備をしていらつしやうでした。七十八歳でいらつしやうでした。

突然の事で後任も決まっていず、ある後継の方が「私がします」と申出があり、何回か日本国でありました。御引継ぎをなさるからと止めたが、選挙で私が選ばれ、倉田さんがお手伝い下さるならば、「と御引受けしたのですが、ゴタゴタでノートも通帳もなくなされたこと事々からの出発になりました。歴史を刻んだノートだけはなんとかしてでも残さすべし。

## 新竹田市長

こあいさつ

竹田市長  
牧 剛 尔笑顔溢れる  
ふるさと「竹田」に

この4月、母校、竹田高校の校歌に歌われる「南に祖母の崇高を、北に久住の望大を」輝く新しいふるさと「竹田市」が誕生いたしました。多感な青春時代、様々な思いをめぐらせながら、声高らかに歌い上げた校歌に登場する親しい大自然の中で、約2万7千有余の新市民は、阿蘇くじゅう国立公園、祖母廟国定公園が広がる477.7平方キロメートルの市域で生活を営み、陸海に通き出す名水や名湯をはじめ、広大な草原と肥沃な大地を全国無類の貴重な財産として有するものになったのであります。

新市を形成した竹田市と直入町の東町、久住町、直入町の一市三町は、古くから政治、経済、教育文化などのあらゆる面で、極めて一体性の強い地域であり、

行政面においても、環境衛生や消防、福祉、防犯などの多くの分野で共同してものごとを進め、いわば一つの運命共同体であったと誇ります。

少子高齢化の進行、広域・多機能化する住民ニーズ、さらには国の三位一体の改革を背景とした行政改革基盤の確立、この地方自治体は不可逆的な重要課題であり、これに的確に対応すべくして、この合併は進められたのであります。

私も、多くの市民の皆様のご支援をいたたく中で、ふるさと「竹田」の、しかも誕生間もない新生「竹田市」の初代市長に拝し上げていただいたことが、思ひもかけぬことであつただけに、改めてその責任の重大さを痛感しているところであります。私は市政執行の基本理念に、「三つの愛」と「五つのわ」を掲げています。「すばらしい自然」と「更にはぐくみをつたえたい大いなる誇り」を愛する。「三つの愛」は、「そして、様々な絆を結んで結ばれる隣人」を愛する。「三つの愛」と、その上での「五つのわ」であり、和みと意味する「平和の和」、話すことは聞くこと、「対話の語」、さらに、みんなが手をつないで作る「九い輪の輪」、これらでの一帯三町が力を重ねる「把握の抱」、そして、自負心、わが国発祥の日本の心、「懐心の懐」こそが後世に誇りを持ってつづきつくりの今一ワードであると確信しております。

また、もうひとつのキーワードとして、「笑顔」を上げさせていたいただき、新市民「笑顔」は心を豊かにさせ、地域に活力を生じ、健康と全世代予防にも通じます。だからこそ「健康一美声かけ運動」を広く市民の皆様にも普及し、それを実践していただく中で、市民と行政とが協働して、「安心、安全、誰かが笑顔で暮らせる竹田市づくり」を目指してまいりますと考えております。

具体的には、この「三つの愛」と「五つのわ」を基本理念に、このたびの合併に当たり、市民の皆様方からもご意見を承る中で策定された「新市建設計画」のまちづくりの基本理念である①地域連携による人・地域社会の育成、②地域特性を活かした福利で快適な生活環境の形成、③超域圏による活力と創発力の形成、④広域的観光ゾーンとの形成と交通網体系の充実、このまちづくりのための四つの柱のうちに、新市の特長である「自然・歴史・文化を育む」名水名湯田原観光都市、たけだの実現に向けたまちづくりを進めてまいります。

私は、竹田市民や竹田市ゆかりの方々には無量、全国各地で活躍される同窓の皆様方のお力添えをいたいただきながら、この観光・健康・文化のまちづくりを、外に向けて情報発信し、竹田の全国ブランド化を図り、農業、

観光、商業の強い基幹産業づくりに、市民の誰もが「安全・安心」して、笑顔で暮らせるまちづくり」を着実に進めてまいります所存です。

しかしながら、昭和30年の国勢調査で、6万人を超えた新市民の人口は、今では2万7千人に激減し、今後のさらなる減少が予測されています。何とかして町にかつての賑わいを取り戻そうと、行政としても市民の方々のご協力をいただきながら、懸命に様々な方策に取り組みんでおります。今、なかなか実現に結び付かない現実があります。

「縁起町板に果て」という言葉があります。ふるさとに強い思いを寄せられる隣人にお住まいの同窓の皆様方には、常に竹田に目を向けていただき、活力あるふるさと「竹田」再生のために、気軽に「ご意見やご提案」をお寄せいただければ幸甚に存じます。併せ

## 祝新「竹田市」発足記念式典



記念式典にあたって祝辞を述べる牧市長

て、新生「竹田市」の政務ととして、しっかりと竹田をPRしていただき、「活力ある竹田」、「笑顔と笑顔溢れる竹田」の実現のために、一層のご支援とご協力をお願いいたしますようお願い申し上げます。

終わりに、各界各層における竹田高校同窓会会長の皆様のご健康、「話陣を心からお祈り申し上げてこあいさついたします。

# ふるさと名所紀行

## ～国宝 宇佐神宮～



国宝の本殿

国東半島の北のつけ根、即ち豊に面した宇佐市一帯は、古代より文化の栄えた土地で、多くの遺跡や宇佐神宮の神域、史跡が点在する。宇佐神宮のまわりの建築物の多くが国宝の「本殿」であることは、まぎれもない。全国四万数千人の八幡神社にあきしい丹波のその風習は八幡造という比類ない建築様式をもつ神殿なのである。また、それについて種々なその姿は訪れる人を驚嘆



境内の池と渡り橋



宇佐神宮宝物館

### 佐藤 毅士 (昭和8年卒)

大分県内に三つある国宝の最後は、全国的に有名な宇佐神宮である。「古事記」には「豊前宇佐」、「日本書紀」には「筑紫国佐佐」として記されている。宇佐の地方神が、八世紀になって中央で浮上したのは、天皇家と結びついたことが大きい。特に奈良時代、聖武天皇が、宇佐八幡神の神託として、万葉集の皇位継承を阻んだ事件であった。そして八幡神は天皇家の信任を得、応神天皇、神功皇后の御孫と結びついたので、八世紀になってからで、さらに八幡神信仰を高めていった。



南楼門神殿

さえずりはおかない。南向きに独立して建てられた三殿が、東西に並列し、手前を外院(前殿)、奥を内院(奥殿)にした二連構造になっている。西から一之御殿に応神天皇、二之御殿に比売大神、三之御殿に神功皇后をそれぞれ祀る。切妻の屋根は厚みのある檜皮葺軒下や柱の隙間には、光り輝く金の装飾が施し、金装飾されている。こうした装飾を目の当た

りにする時、かつて国家の形に集った宇佐神宮の計り知れない強大な権力を垣間見る思いがしてならない。また、神宮境内の宝物館では、国宝の孔雀文鏡や、重文銅鏡など貴重な史料が観覧できる。宇佐神宮を訪れば、その神殿は赤が映え、権威と神秘に満ちた古来の伝統を感じさせる。赤は陰陽五行思想の南であり命の輝く場であるという。宇佐神宮は何度も蘇りつつ、今日にその姿を伝えているのである。

○交通 1日1回本郷宇佐駅か  
らバスで十分  
○拝観 境内自由  
宝物館  
午前8時30分から  
午後4時30分まで

## 訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

### 物故者御芳名

- 高口 政子様(昭和28年生) 平成15年7月17日 没  
 安田十三雄様(昭和28年生) 平成15年6月22日 没  
 伊東 正義様(昭和17年生) 平成16年7月5日 没  
 中村 幸恵様(昭和8年生) 平成16年9月4日 没  
 中川 清次様(昭和4年生) 平成16年11月14日 没  
 太田 克己様(昭和4年生) 平成17年1月14日 没  
 新名 義隆様(昭和24年生) 平成17年2月5日 没  
 三宅 義雄様(昭和8年生) 平成17年6月14日 没  
 馬号 良彦様(昭和28年生) 平成17年6月30日 没  
 野口 初子様(昭和8年生) 平成17年7月13日 没

身切らぬ方法により、要物へ連絡を頂いた方々を掲載しております。

## 会員の皆様へお知らせ!!

### 竹田市の近況

最近、新聞雑誌で竹田市の記事を目にする機会が多くなったような気がします。最近目にした中から幾つか紹介したいと思います。

① J&SのフルムーンのPRで、全国の駅構内に同様のものご安置がポスターとなって掲示されています。是非ご覧になって下さい。

② 十一月三日発行の雑誌「ザライの創刊号」で「単位の温泉宿」では、なんと竹田市の温泉が2件も紹介されています。表紙と三八ページに赤川温泉、八六ページに長湯温泉がそれぞれ見開きで紹介されています。竹田市の宣伝を兼ねて是非お友達にもご紹介下さい。

③ 九月二七日の朝日新聞に「軍神の姿、令嬢に贈った相聞歌」のタイトルで故岡田謙一先生の「ロシアにおける隣国武夫」が詳しく紹介されました。

其の朝、旭光の早山の再生から始った環境・経済循環のイベント竹葉が今年も十一月十八・二十日に掛けて盛大に催されました。岡城の紅葉が夕日に染まるころお寺の鐘樓に合せて二万本の竹打籠が一斉に点火され訪れた人々を随分の世界へと誘う。この時期に合せて多くのクラスが催されましたが、その様子は次号で紹介予定です。

### 里見奨学会について

里見奨学会は昭和三二年に故里見謙二氏が人材育成と教育振興を目的に設立されて本年で五十周年を迎えています。これまでに母校の学生を初めとして通算で二五〇〇人が奨学金を受けています。このほか学術研究の助成や竹田地区の小中高校への図書購入の助成などをおこなっています。今年五月十九日には理事長・里見有里氏が大部分の賛助し感謝状等に活動状況を報告をしました。その様子は同日並びに五月十七日テレビ大分で放映されました。

## 詩歌・文芸

### 用作公園

石原田鶴子  
(昭和14年生)

振り返る事のみ多き歳にて  
亡き母を友を忘れじと思ふ

故郷を共にせし人は情かしく  
川の流れも聞こゆるがごと  
と

露下をば磨きたる学舎路も  
なく無機質の広き道のみ通  
る

「天雲遠く」此の校歌うた  
うは何時の日ぞ久住の嶺を  
雲流れゆく

長雨の続きし後の秋晴れに  
島の野菜の色みずみずし

## あとがき

※「投稿」をお待ちしています。

若い世代の皆様「クラス会情報」や「物産寄附」等々、ご投稿を特に期待しております。

委員一同

### ・投稿内容

- ① クラス会情報
- ② 詩歌・文芸
- ③ 故郷の便り
- ④ 会員の催し
- ⑤ 海外便り
- ⑥ 会員消息
- ⑦ 会員の贈らぬ
- ⑧ その他

### ・連絡先

〒302-1003 4  
茨城県取手市戸須七丁目  
七二二-1001

佐藤 敏士 宛

TEL 0297-777777  
FAX 0297-777777

